



# 子育ての知恵袋

## 「これ、なあんだ？」

なぞなぞの問題をだすことがまだ苦手な子どもにおすすめしたいあそびです。なぞなぞに限らず、話したいことを相手に伝わるように説明することは難しいです。その前段階として、下記のあそびはどうでしょう。

「これ、なあんだ？」

用意するもの：答えとなるカード（絵・文字）

方法：子どもが答えとなるカードを手に取り、大人には見えないようにします。

大人はその答えが何なのか、子どもに質問していきます。

（例）答えのカード：「たいこ」

質問：それは何の仲間ですか？ → 「がっき」

それはどうやって音をだす？ → 「たたく」

どんな音？ → 「とんとん」「どんどん」 など。



\* 「どうやって音をだす？たたく？ふく？」など、子どもが答えやすい内容の質問から始めてください。

## ～いっしょに遊ぼう～

### 身近な自然と共に生きる

宝塚市に20年以上住んでいた手塚治虫。少年時代、昆虫採集に夢中だった事は良く知られています。何冊もの昆虫本を自主制作したのは10代の頃というのですから、後に漫画家として大成する彼の偉大さが分かります。

16歳に作成した「昆虫つれづれ草」の中で語られている文を一部抜粋してみました。

『昆虫が人情に関係し、人を左右する事は多い。情的な昆虫、詩的な昆虫、活動的な昆虫、静寂そのもののような昆虫。皆それぞれ人と接し人情に触れて人の感情を動かすのである。

花に戯れる蝶を見て心が晴れ、秋に鳴きすたく虫の音を聞いて心に涙を催すのは日本人が古来から有していた自然を愛し慕う精神であった。この国民性があるからこそ現代の日本民族の風情、日本文化の基礎がきずかれたのではないか。古来からの伝統の大部分はそうしてなされたものではないか。我が国の国民性が感情的であるのも一に自然が包み、昆虫が豊富だからであると言えまいか』

80年前の言葉。そこから今を生きる私たちに色々な意味で刺さる言葉です。

日本の四季が曖昧になってきている感覚がありますが、それでも春夏秋冬があり、南北に長い島国のため豊かな生態系を有する日本。16歳の手塚治虫が語った昆虫が何か思い浮かべられたでしょうか。しかし、昔子どもだった人も虫嫌いが増えているかもしれませんね。

### キリス チョンヌ コドモニ トラレテ アホラシ チョンヌ

両手を羽に見立て、両足揃えて跳びます。  
草役が適当な距離を取り、そこまで跳べるかな？

キリスとはギリギリス。鳥や虫の鳴き声が少しでも聞かれる場所が身近にありますか？子どもが必要とする環境に国の指針にも自然が記載されています。生活と隣り合わせにある事が大事ですね。感受性が豊かに育つための一つの要素です。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなごます  
夢と希望のもてる たからっこを  
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター

〒665-8665 宝塚市東洋町1-1

電話 0797-71-1141(市役所)

0797-77-2132(直通)

FAX 0797-71-1891

E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。